

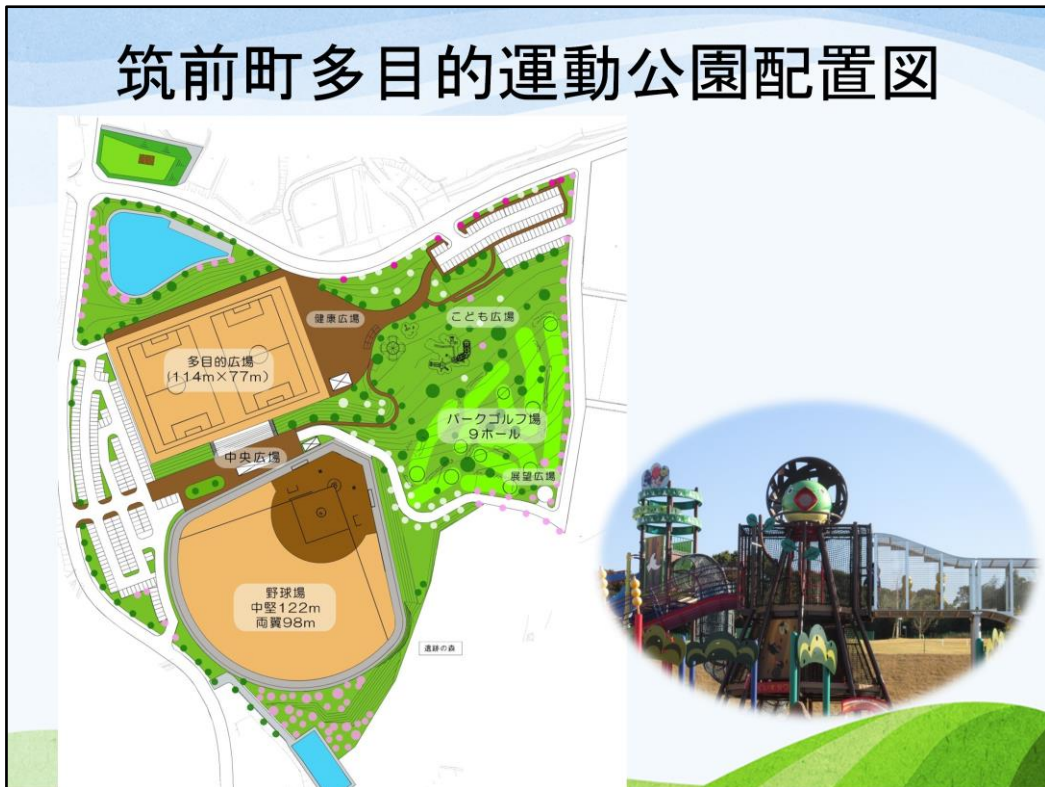
ハード面におけるまちづくり



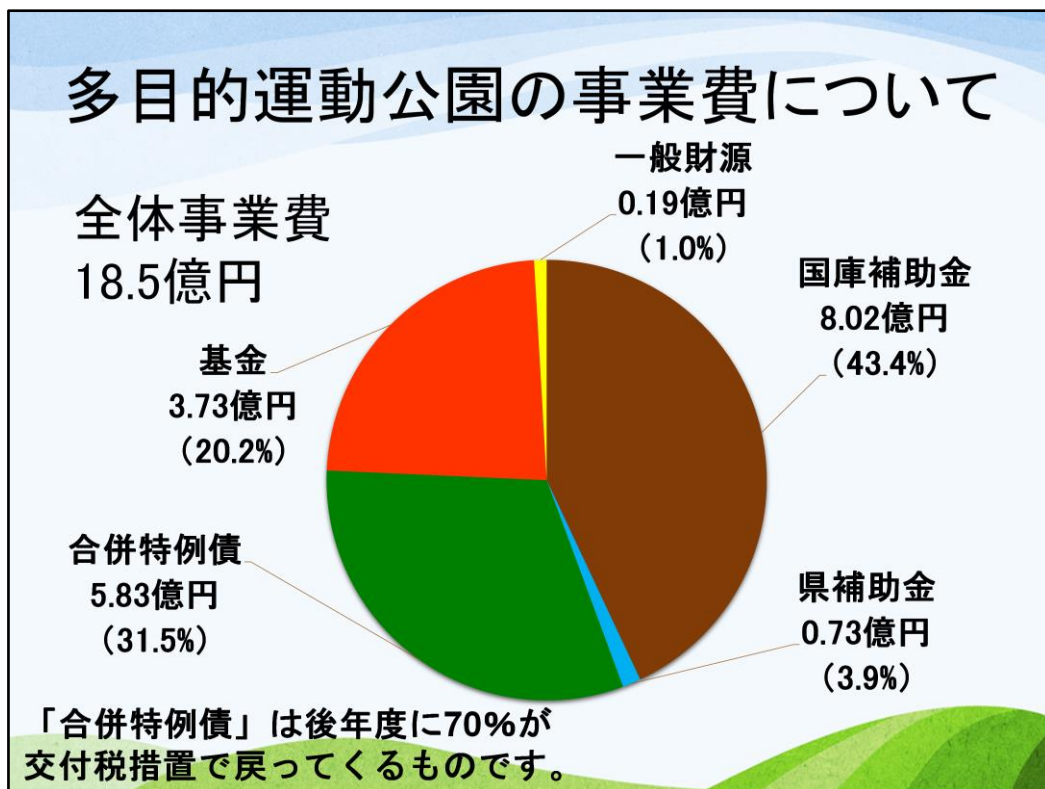
入庁2年目、上下水道課の光安と申します。よろしくお願ひします。
私からは、2つのまちづくり事例について報告します。



ひとつめは、筑前町多目的運動公園事業についてです。
多目的運動公園は、旧三輪町と旧夜須町の
合併新町建設計画で整備することとなった公園です。
平成17年度に基本構想、
平成19年度に基本計画・基本設計を行い、
その後変更設計を経て、
公園事業の都市計画決定、
事業認可を取得しました。
平成23年度から国の補助事業を活用し、
多くの関係者の方に協力をいただきました。



平成27年9月には大型遊具を中心としたこども広場、健康遊具のある健康広場、多目的広場をオープン、昨年4月には、パークゴルフ場とメイン駐車場をオープンしました。今年度は、野球場の本体工事に加えて、ナイター設備の工事を行っており、3月27日に開園式を行う予定となっています。野球場は、中堅122m・両翼98mの硬式野球規格となっており、120人分の観覧スタンドも整備しています。また、LEDの夜間照明を野球場に6基、多目的広場に4基設置しており、整備後は22時までの利用が可能となります。駐車場は野球場側のメイン駐車場と子ども広場側のサブ駐車場合わせて、280台分となります。



次に多目的運動公園の事業費についてです。

全体事業費は18億5,000万円。

「防災・安全社会資本整備総合交付金」という国の補助事業であり、

用地補償費は3分の1、

工事費は2分の1の補助で、

8億200万円が国庫補助金となっています。

県の補助金は7,300万円、

合併特例債は5億8,300万円の借入金ですが、

このうち70%が交付税措置で戻ってくることになります。

基金の3億7,300万円は、

下高場にあったグラウンドを

自衛隊に売却した費用を主に充てています。

町の捻出費用は

合併特例債の交付税措置以外の部分約1億7,500万円と

一般財源1,900万円の

合わせて1億9,400万円となります。



休日ともなると、たくさんの家族連れでにぎわっており、近隣の市町村から訪れる方も少なくありません。パークゴルフ場では、子どもからお年寄りまで一緒になってプレーする姿も見受けられます。3月末には硬式規格の野球場もオープンし、一層にぎわうこととなるでしょう。公園の魅力を通して、筑前町を知り、「いいところだな・住みたいな」となればより町も活性化することだと思います。みなさまにもご利用いただき、また町内外のお知り合いにPRをしていただきたいと思います。以上で多目的運動公園事業の報告を終わります。

筑前町立大刀洗平和記念館 増築事業

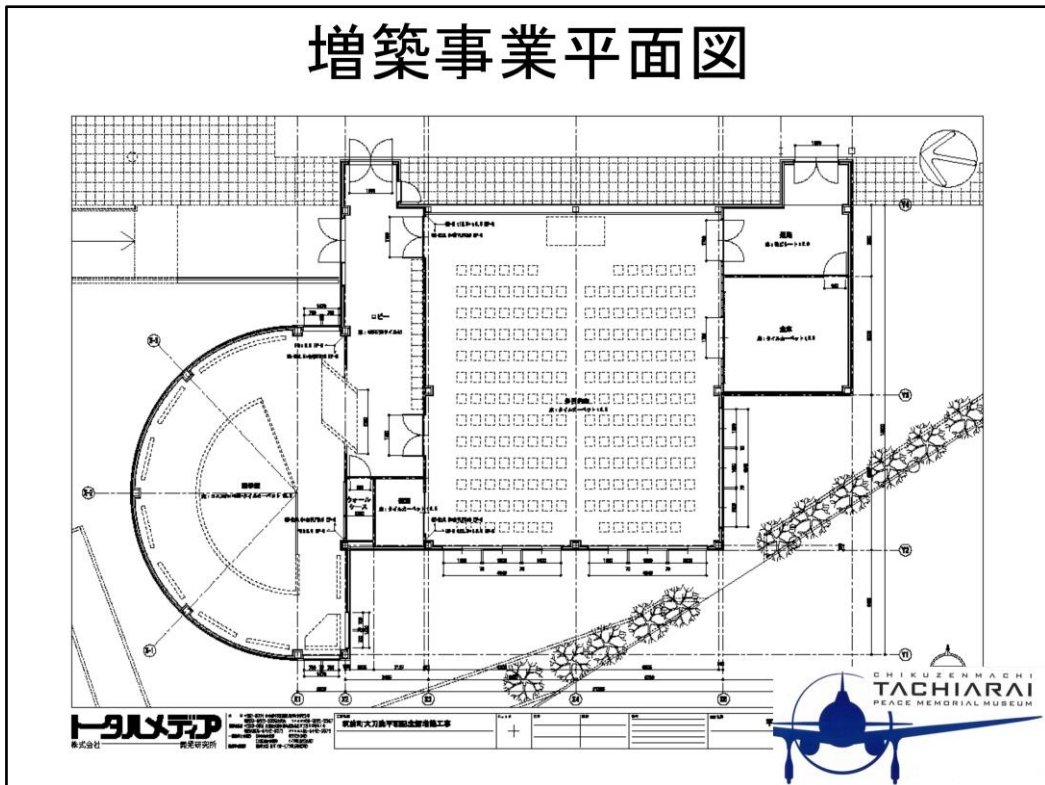


次に、筑前町立大刀洗平和記念館増築事業について報告します。

増築事業イメージ図



平成21年10月に開館した「筑前町立大刀洗平和記念館」は、かつて東洋一と謳われ、筑前町、朝倉市、大刀洗町と広範囲に存在した旧陸軍大刀洗飛行場を核として、風化しつつある戦争の悲惨さと平和の大切さを語り継ぐ平和学習施設として運営を行ってきました。来館者は、昨年4月には90万人を超え、増加する団体来館者の対応や新たなテーマづくりについて課題が発生しています。それらの課題解消を目的として、現在、本館西側のスペースに新館を建設し、今年4月にオープンします。新館は、鉄骨造り、平屋建て、床面積約390㎡の建物となっています。



次に、平面図で、主な用途を説明します。

はじめに、中央の多目的ホールです。

現在本館で行っている映画上映及び平和の朗読は、
1回あたり100人が限界です。

修学旅行などの大規模団体、複数の団体の来館者に、
十分な対応ができていなかったことを解決する目的で、
200人程度が収容できるホールとなります。

講演会やイベントの会場、臨時展示企画の利用も考えています。

次に、左下にある半円状の新展示室の設置です。

「特別攻撃隊」を展示のメインテーマとします。

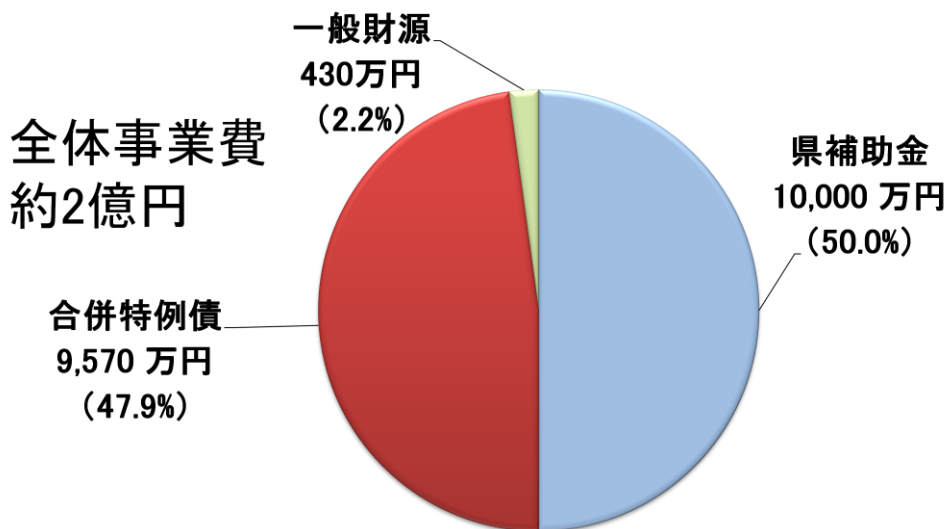
いわゆる「特攻」については開館以来、

来館者の方々の関心が高いテーマであり、

「特別攻撃隊」が大刀洗から出撃した史実も残っており、
戦争の悲惨さや当時の人々の思いを学習する

展示室になる予定です。

大刀洗平和記念館増築の事業費



「合併特例債」は後年度に70%が
交付税措置で戻ってくるものです。



次に事業費ですが、約2億円となっています。
 県の「広域元気づくり事業交付金」という補助事業を活用し、
 補助率は2分の1で、
 1億円が県の補助金となっています。
 合併特例債は9,570万円、
 このうち70%は、交付税措置で戻ってくることとなります。
 町の捻出費用は合併特例債の交付税措置以外の部分
 約2,870万円と一般財源430万円の
 合わせて3,300万円となります。



大刀洗平和記念館は、これからも
旧大刀洗飛行場の歴史や風化しつつある戦争の悲惨さとともに、
平和の大切さを後世に語り継ぐ平和学習施設として
運営を充実、発展させていきます。
以上で大刀洗平和記念館増築事業の報告を終わります。
(発表者交替)

西部地区保育所整備推進

入庁2年目、生涯学習課の橋本と申します。よろしくお願ひします。
私からも2つのまちづくり事例を報告します。
ひとつめは、西部地区の保育所整備推進についてです。

西部地区の保育所整備推進

筑前町保育所入所状況

	定員 A	H28.4.1 入所者数 B	H28.10.1 入所者数 C	超過人数 (AとC比較)
美和みどり保育所(依井)	150人	121人	140人	△10人
白梅保育園(原地蔵)	100人	114人	127人	27人
篠隈保育所(篠隈)	130人	146人	163人	33人
なずな保育園(東小田)	120人	141人	155人	35人
合計	500人	522人	585人	85人

全国的に深刻化している「待機児童」問題。
筑前町も例外ではありません。
本町では、夜須地区を中心に
定員超過が慢性化している現状があり、
特に0歳～2歳の低年齢児の保育希望が増加傾向にあります。
また、平成28年10月1日時点の入所者数は、
合計で585人であり、
定員を85人超えている状況です。
何とか保育基準を満たした対応を行っていますが、
すでに手いっぱいの状況であり、
希望の保育所に入所できないことや、
入所日を調整していただくことがある状況です。

西部地区の保育所整備推進

・入所定員の拡大



・需要と供給のバランスを適正化



・子育て環境づくり・少子化対策

・地域雇用促進・子育て世代の転入促進

このような状況から、定員超過が慢性化している夜須地区において、中でも、福岡都市圏に近い中牟田小学校区に保育所の新設を行うこととしました。

入所定員を拡大することで、保護者が安心して働きやすい環境づくりができ、出生率向上のほか、地域雇用の促進や子育て世代の転入促進などの効果も期待できます。

西部地区の保育所整備推進

■事業概要

予 定 地 朝日

入所定員 90人

事業実施主体 筑前町

施設設置主体 社会福祉法人すぎのこ会

施設運営主体 社会福祉法人すぎのこ会

総事業費 約2億4,000万円(見込)

補助金額 約1億3,000万円(見込)

(負担内訳 国:約1億1,500万円、町:約1,500万円)

事業概要については、現時点ではご覧のとおりです。

朝日地区に定員90人規模の保育所が民営により建設されます。

施設の設置・運営は、現在、なすな保育園を運営している

「社会福祉法人すぎのこ会」により行われます。

総事業費は、約2億4千万円。補助対象経費における補助金の負担割合は、
国3分の2、法人4分の1、町12分の1、となります。

このことで、施設整備に係る町の負担は、
約1,500万円となる見込みです。

あさひ保育園



平成29年4月開園予定

住所 筑前町朝日1078番地1

新設保育所は、「あさひ保育園」と名付けられ、平成29年4月から開設できるよう、現在、建設が進められています。ご覧のとおり、2階建ての施設となっており、場所は、朝日地区のコンビニ「ファミリーマート」のところから南側に入っていったところになります。あさひ保育園の整備により、町内の保育所定員は合計で、590人になります。子育て世代が育児と仕事を両立でき、出産や子育てに希望を持てる地域となれるよう、今後も取り組んでいきたいと考えています。以上で、西部地区の保育所整備推進についての報告を終わります。

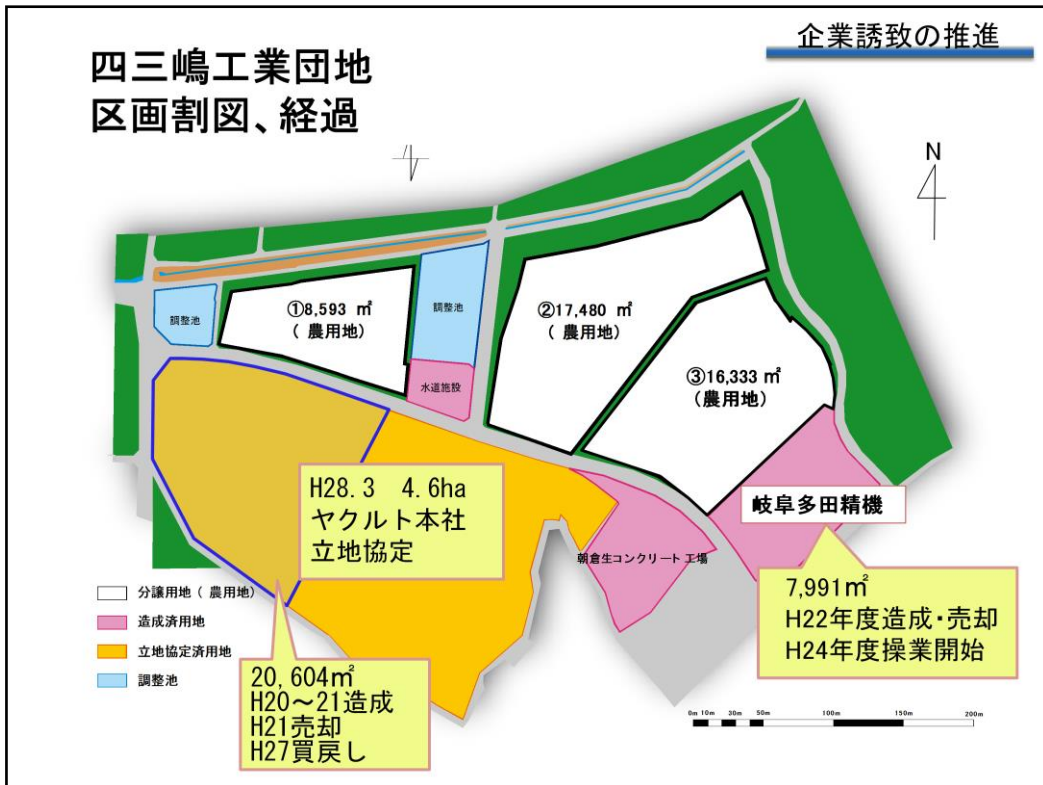


2つめは企業誘致についてです。

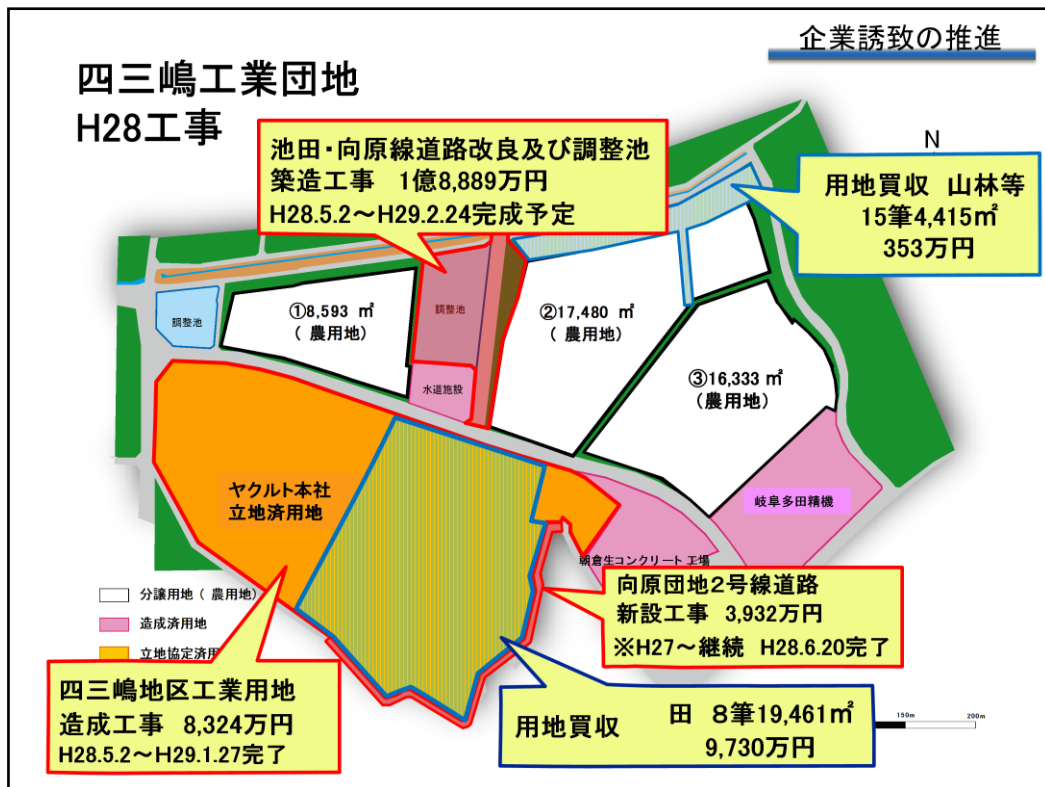
筑前町では、産業の振興と雇用拡大による町の活性化のため、最重要施策として企業誘致の推進を行っています。

総合計画や都市計画マスタープランにおいて、県道久留米筑紫野線沿線の四三嶋地区を企業誘致ゾーンとして定めており、約11ヘクタールの四三嶋工業団地への誘致を推進しているところです。

筑前町南部に位置する四三嶋工業団地は、小郡インターチェンジまで車で5分、福岡都市圏や久留米都市圏にも近く交通利便性に優れ、また、上下水道等のインフラも整った企業誘致に非常に適した立地条件となっています。



これまで四三嶋工業団地に進出されたのは、平成24年に操業開始されました岐阜多田精機の1社となっています。平成21年にマルヤス工業に売渡していた青い線で囲んでいる2ヘクタールについては、工場建設を断念されたため、平成27年8月に買戻しを行いました。その2ヘクタールを含む黄色の部分、約4.6ヘクタールについて、昨年3月28日に株式会社ヤクルト本社と立地協定、土地の売買契約を行いました。



今年度は、ヤクルト用地内の民有地の用地買収や造成工事、周辺道路の整備工事及び調整池の築造工事を行っています。造成工事及び道路新設工事は完了し、道路改良工事及び調整池築造工事は2月末完成予定となっています。

企業誘致の推進

四三嶋工業団地
工事状況

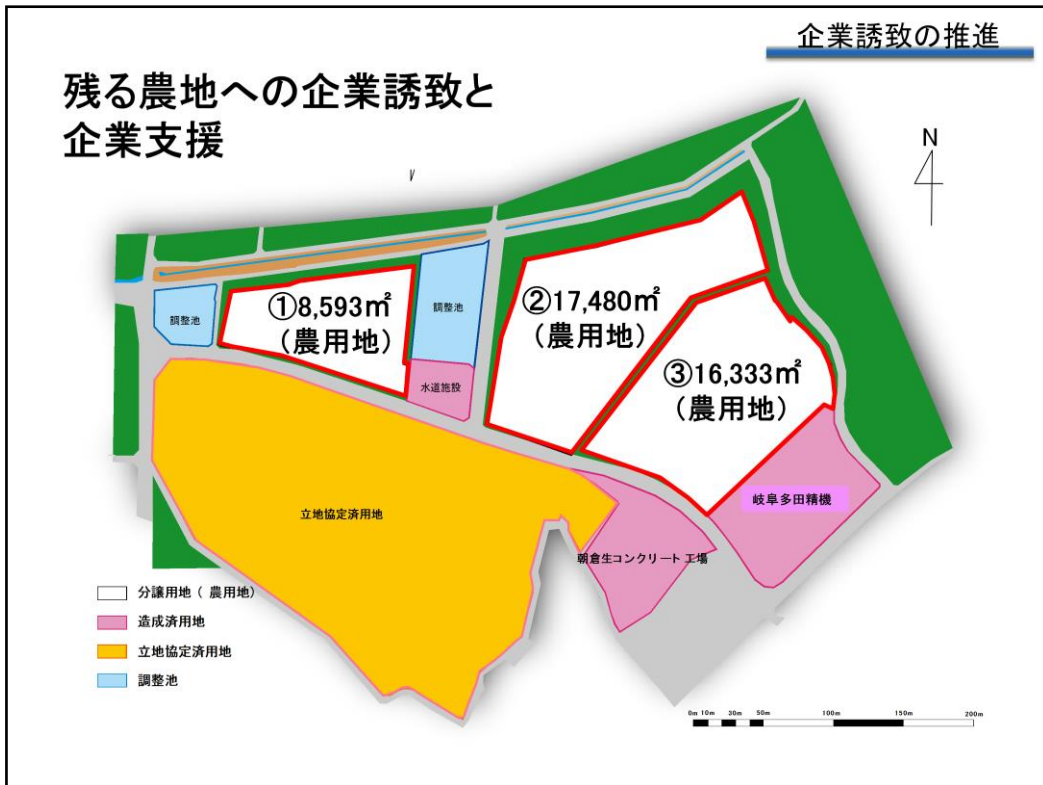
(H29.1.18現在)



▲ヤクルト用地
造成工事状況

◀池田・向原線道路
改良、調整池築造
工事

現在の状況はご覧のとおりです。
右上の写真が、ヤクルト用地の造成工事の状況です。
3月にヤクルト本社へ土地の引き渡しを行います。
いち早い操業開始が待たれます。
左下は道路改良、調整池築造工事の状況です。



四三嶋工業団地は

これまで、農業振興地域内の農用地であるため、
企業誘致が困難な状況にありました。

今回の企業誘致の取組により、

時間はかかるけれども、企業誘致が可能となりました。

現在、県内外の企業から多くのお問合せを受けているところです。

残る農用地4.2ヘクタールも、

食の都づくりというコンセプトをもとに

優良企業の誘致をすすめることで、

雇用の促進並びに活性化が期待できます。

さらに誘致した企業の支援や連携に努めていきます。

以上でハード面におけるまちづくりの報告を終わります。

(発表者交替)